

ある。

1 インフレーションの第一期進行形態

大養内閣がインフレの端緒として第一回第二回の日銀利  
下政策も其の効を奏せず一銭一厘時代を續行し兌換券は再  
び日銀への逆戻りとなり金融市場は引縮むに至つた。

五厘安

四厘五毛安

落を助長した。

正銀建値

對米爲替

六年

四九、〇〇

四九、〇〇

四九、〇〇

四九、〇〇

四九、〇〇

四九、〇〇

東京大阪市中金利月表 (單位錢)

		(東 京)				(大 阪)			
年	月	商業手形		物産手形		日物		無條件	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
7	6	2.20	1.45	1.60	1.30	1.45	1.10	1.40	1.10
7	7	2.00	1.40	1.60	1.20	1.35	1.05	1.30	1.05
7	8	2.00	1.20	1.40	1.15	1.25	0.95	1.20	1.00
7	9	2.00	1.20	1.30	1.15	1.10	0.90	1.05	0.35
7	10	1.90	1.20	1.30	1.10	1.00	0.80	1.00	0.30
7	11	1.80	1.30	1.30	1.15	0.90	0.70	0.90	0.70
7	12	1.80	1.15	1.30	1.15	1.10	0.60	1.10	0.60
8	1								
8	2								
7	6	1.90	1.50	1.70	1.25	1.40	1.10	1.45	1.20
7	7	1.90	1.50	1.50	1.10	1.35	1.05	1.35	1.05
7	8	1.80	1.50	1.40	1.00	1.25	0.95	1.20	1.00
7	9	1.80	1.30	1.30	0.95	1.10	0.90	1.00	0.80
7	10	1.80	1.35	1.25	0.95	1.00	0.85	1.00	0.80
7	11	1.80	1.20	1.30	0.90	0.90	0.70	0.90	0.70
7	12	1.85	1.15	1.20	0.80	1.10	0.60	1.00	0.60
8	1								
8	2								
8	3								

年	月	正銀建値	對米爲替
七年	一月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	二月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	三月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	四月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	五月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	六月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	七月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	八月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	九月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	十月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	十一月	三六、〇〇	四九、〇〇
七年	十二月	三六、〇〇	四九、〇〇

兌換券の發行は次表の示す如く

日本銀行發行兌換券表

年	月	金額	正 價	準 備
昭和 6	11	9,723		
	12	1,187		
	1	1,111	6年 2月	832,504
	2	1,138	7	430,560
	3	1,127	7	429,065
	4	1,058	7	425,068
	5	1,120	7	425,068
	6	986	8	425,068
	7	984		
	8	972		
	9	1,039		
	10	1,036		
	11	1,194		
	12	1,176		
昭和 8	1	1,156		
	2	2,283		

(單位百 萬 圓)

此の傾向と國內に於ける農民、都市プロレタリアートの  
窮乏は極地に達し、『崩の植下、東北北海道地方の飢饉、  
都市に於ける二百萬を越ゆる失業者、従つて消費力の退  
— 小市民の窮乏—これによつて起る政治的不安の波は急  
速度に高まり、政治不信を通じて階級的對立—大衆の  
闘争力發展に戦いた支配階級は六十一議會に於て無産階級  
に對する欺瞞政策としての第六十二議會の招集を決定した  
第六十二議會は、農村救済の名に於て、三年計劃、土木事  
業費等三億六千萬圓の支出を農民の憤激の中に可決した。  
インフレーションは本質的第二期への階段へと押進めら  
れ、齋藤内閣の農民救済も國內の政治的不安に何等の効を  
奏せず、事局救済策としての第六十三議會を開催し小市民  
層の救済—小口貸出、失業救済—土木事業等々—が決定  
せられた。

インフレーションは本格的遂行、經濟的インフレ—を連  
らんとしつゝあるとき、日支關係は極度に悪化し日支事變  
費への支出を餘儀なくされ、六年度七年度に於て三億二千  
萬圓を大蔵省が引受、經濟的インフレは遂に軍事インフレ  
への形態へとすり換へられるに至つた。この爲めに爲替は  
より一層悪化し、前項表に示す金利の底下は前表に示せる  
如くである。

通貨は膨脹するに至つたのである。

齋藤内閣は時局救済の名に於て八年度豫算は吾國未嘗有  
の龐大なる豫算を編成した、其の豫算の概要を見るに二十  
二億三千九百萬圓、三月一日提出の追加豫算六千八百五十  
萬圓、總計二十三億、内國家收入十三億萬圓、赤字公債  
十億萬圓の發行であり、其の支出豫算の四割五分を陸海軍  
の軍備改善費、日支事變費—に於ては經濟的インフ  
レーションは完全に軍事インフレーションへの轉換を見る  
に至つた。